

## 資料 9.6 地下水

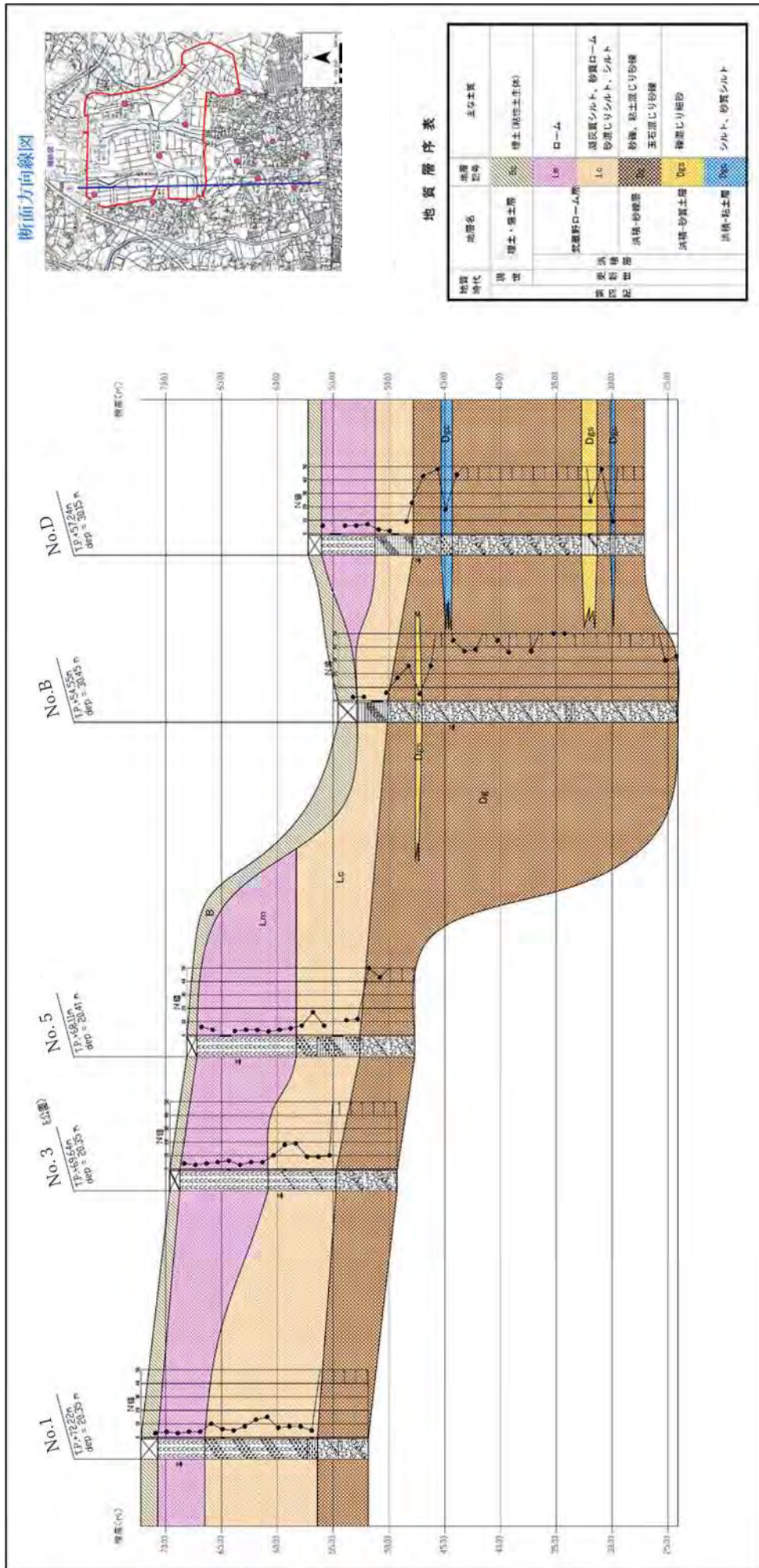
### 9.6-1 対象事業実施区域及びその周辺の地質等について

現地調査（ボーリング調査）により得られた土質、色調、N値等を基に分布する地層を区分し作成した地質断面図を図9.6-1(1)～(5)に示します。なお、作図にあたっては、別途環境影響評価の手続きが行われている、(仮称)都市高速鉄道上瀬谷ライン整備事業のために実施された調査地点の結果も含めて検討しました。また、現地調査で確認された土層一覧を表9.6-1に示します。

対象事業実施区域付近の地層は、上位より埋土・盛土総（Bc）、武蔵野ローム層のローム（Lm）、凝灰質シルト、砂質ローム、砂混じりシルト、シルト（Lc）、洪積層の砂礫、粘土混じり砂礫、玉石混じり砂礫（Dg）が分布しています。

表 9.6-1 現地調査で確認された土質一覧表

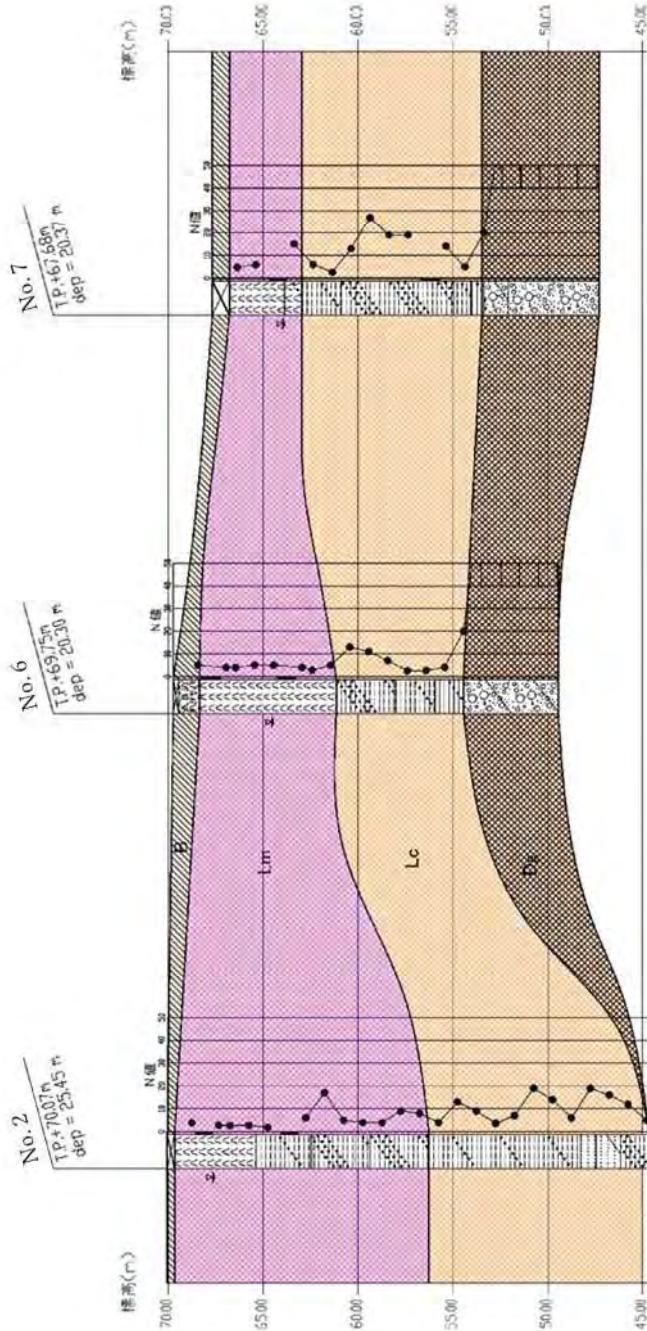
地層名	地層記号	主な土質	層厚 (m)	N値(回)			相対密度 相対稠度	主な 色調	層 相
				最小値	最大値	平均値			
埋土・盛土層	B	埋土(粘性土主体)	0.30～ 1.70	3	8	5.1	-	暗褐灰～ ～黒茶灰 ～黒灰	・礫を少量混入 ・粘性は全体に弱く不均質 ・コンクリートガラ・礫・レンガ等を混入 ・層下部砂を含みコンクリート基礎のガラ混入
ローム層 武蔵野	ローム層	Lm	4.20～ 9.10	0	7	4.6	非常に軟 らかい～ 中位	黄褐～ 暗褐～暗 灰	・全体に軟質となり粘性中位 ・均質である ・含水少量、礫点在する箇所あり
	凝灰質粘土層	Lc	2.70～ 11.65	2	19	10.0	非常に軟 らかい～ 中位非常 に硬い	黄褐～緑 褐～暗褐 色～暗灰	・粘性中位 ・所々酸化褐色を呈す ・層下部につれて砂質粘土となる ・所々砂を混入する地点あり
洪積層	洪積-砂礫層	Dg	3.55～ 13.00 以上	30	50以上 (300)	50以上 (83.4)	中位～非 常に密な	黄灰～暗 青灰～暗 灰	・含水多量、φ最大150mm程度の玉石混入 ・マトリックスは細砂 ・φ3～50mmの礫を多量混入
	洪積-砂質土層	Dgs	0.60～ 1.40	24	24	24.0	中位	暗灰	・不均一な砂 ・含水少量 ・部分的に礫を混入する
	洪積-粘性土層	Dgc	0.40～ 2.15	7	24	14.5	中位～非 常に硬い	黄褐～黄 灰～暗青 灰～暗灰	・全体に砂混入 ・粘土固結済み ・スコリア混入する



注：No. B、Dは(仮称)都市高速鉄道上瀬谷ライン整備事業の環境影響評価の調査のために行われた調査地点です。

図 9.6-1(1) 地質断面図 (No. 1-No. 3-No. 5-No. B-No. D 方向)

断面方向線図



地質層序表

地質時代	地層名	地層記号	主成分
現世	粘土・粘土層	Br	粘土 (粘土土主体)
	穴蔵野ローム層	Lm	ローム
美新世		Lc	凝灰質シルト、砂質ローム
		Bq	砂質シルト、シルト
		Bq	砂、粘土混じり砂層
紀	洪積-砂礫層	Bq	玉石混じり砂礫
	洪積-砂質土層	Bq	礫混じり粘土
	洪積-粘土層	Bq	シルト、砂質シルト

図 9. 6-1 (2) 地質断面図 (No. 2-No. 6-No. 7 方向)

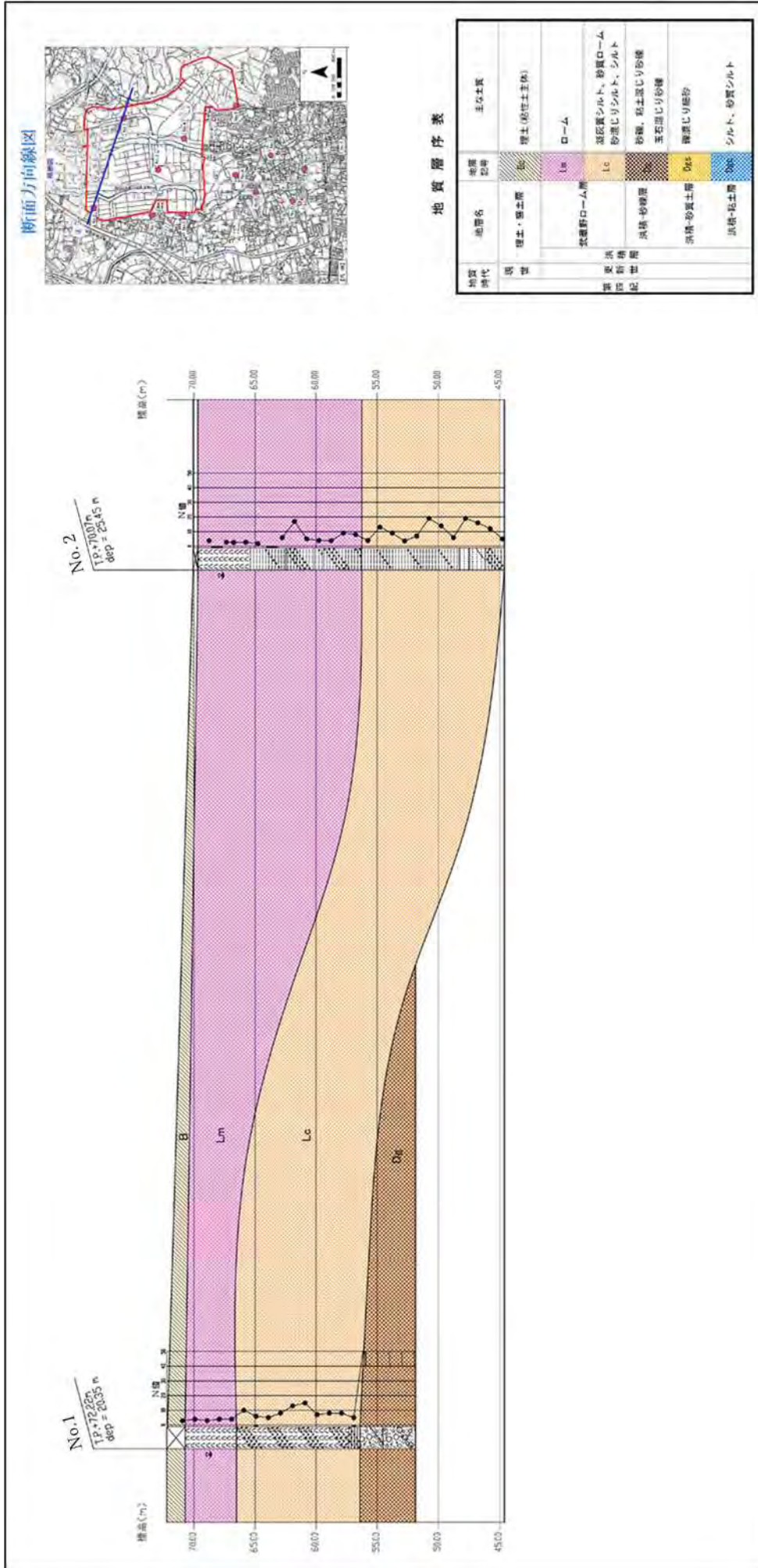
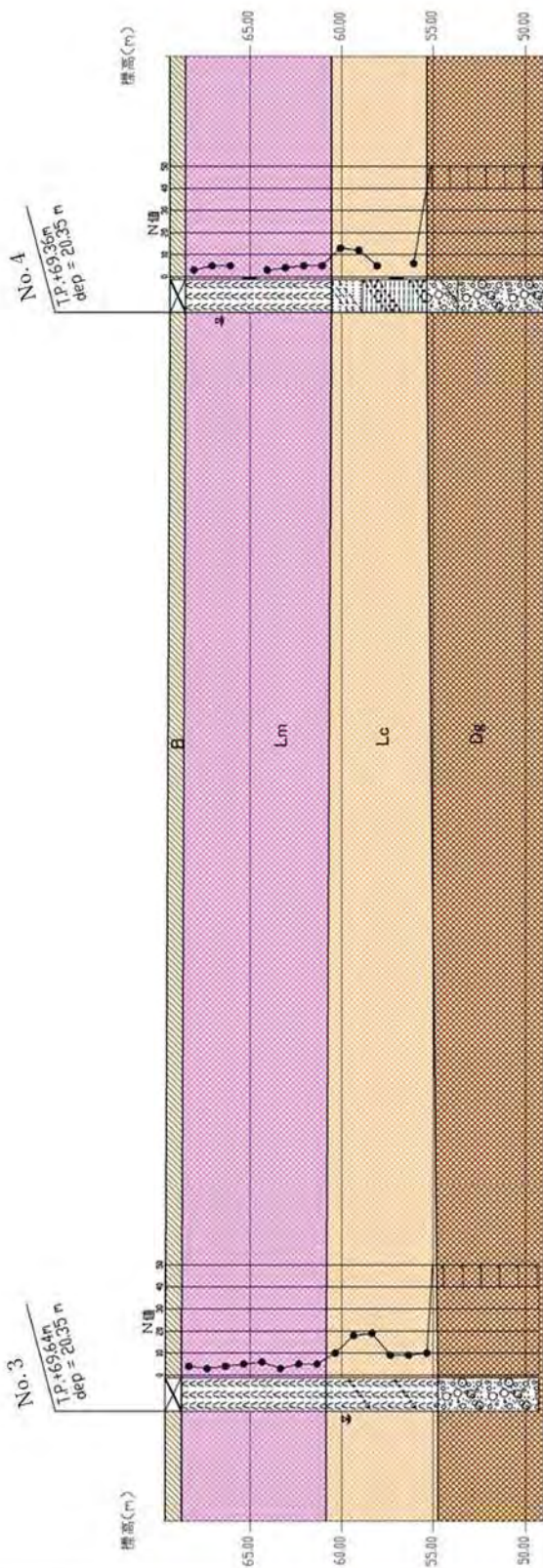
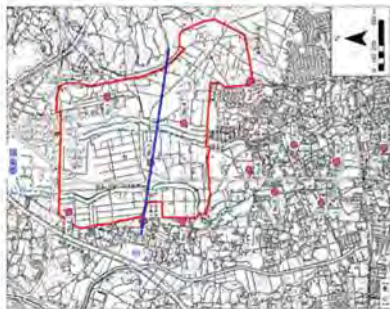


図 9.6-1 (3) 地質断面図 (No. 1-No. 2 方向)

断面方向線図

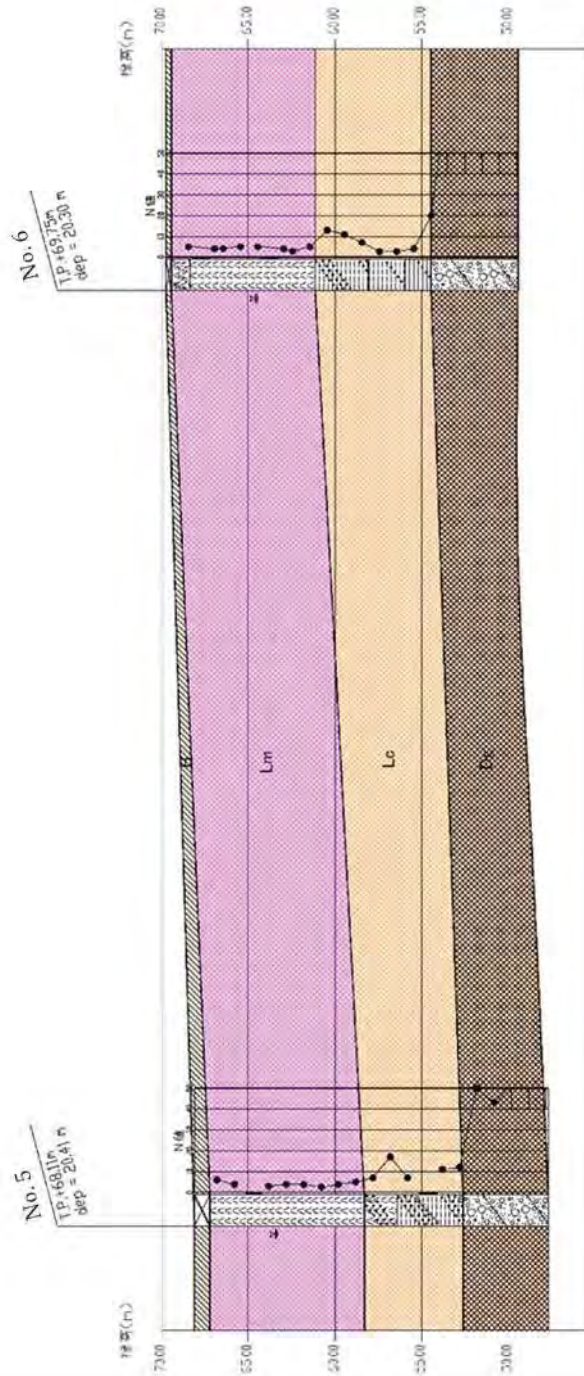


地質階序表

地質階序	地層名	地層記号	主たる土質
現 存	埋土・埋土層	B	埋土(粉状土主体)
			ローム
埋 入	武蔵野ローム層	Lc	埋入層シルト、砂質ローム
			砂質じりシルト、シルト
埋 入	河原-砂礫層	Rc	砂礫、粘土質じり砂礫
			玉石混じり砂礫
埋 入	河原-砂質土層	Rq	埋入じり細砂
			シルト、砂質シルト
埋 入	河原-粘土層	Rk	シルト、砂質シルト

図 9.6-1 (4) 地質断面図 (No.3-No.4 方向)

断面方向線図



地質層序表

時代	地層名	記号	土質
現 世	埋立・埋立層	埋	埋立 (埋立土)
	埋立層ローム	埋	ローム
新 鮮 層	埋立層	Lc	埋立層シルト、砂質ローム、砂質じりシルト、シルト
	埋立層	Lm	砂質、粘土質じり砂
	埋立層	Dc	重石質じり砂
埋 立 層	埋立層	Dc	埋立じり砂
	埋立層	Dc	シルト、砂質シルト

図 9. 6-1 (5) 地質断面図 (No. 5-No. 6 方向)